

IP時代における電気通信番号の在り方に関する研究会(第2回)議事要旨

1 日時

平成17年2月22日(火)14:00~17:00

2 場所

総務省第1会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

齊藤 忠夫(座長)、相田 仁、一井 信吾、冲中 秀夫、小澤 廣、河村 真紀子、郷右近 一彦、櫻井 浩、志岐 紀夫、宍戸 一弥(代理 風間信男)、茅野 徹男、辻村 清行、橋本 信(代理 栗野友文)、比留川 実、藤岡 雅宣、山崎 吉一、山本 正彦(以上17名)

(2) 総務省

有富総合通信基盤局長、江崎電気通信事業部長、門馬番号企画室長、深堀番号企画室課長補佐

4 概要

(1) 第1回研究会議事要旨(案)

意見がある場合は総務省に連絡することとなった。

(2) 前回の質問事項について

前回質問があった、「IP電話料金」、「携帯電話の国際ローミング」、「0AB~J番号の指定状況(指定番号数と番号区画)」について、総務省から説明があった。

(3) 議事(1)「WG検討状況の報告」

WGリーダーの相田構成員から、第1回ワーキンググループが1月20日に開催されたこと、作業分科会を設けひっ迫対策について検討中であることが報告された。

また、ENUMトライアルへの対応について、今後の体制整備に関する検討結果が報告された。

(4) 議事(2)「消費者モニター調査について」

総務省より、平成16年度電気通信サービスモニターに対する第2回アンケート調査結果速報値の説明があった。

(5) 議事(3)「電気通信番号の在り方について」

斎藤座長、相田構成員、風間構成員代理、山本構成員による「電気通信番号の在り方」に関するプレゼンテーションの後、質疑応答が行われ、構成員から次のような意見が出された。

○ 固定電話では、場所が固定されていることが社会的信頼性の基礎となっており、IP化が

進展しても固定と携帯の識別等は維持していくべきではないか。

- 料金識別ニーズは低下しつつあるが、一定の地理的識別は確保すべきではないか。
- 現行の番号区画数は多く、番号区画の統合や閉番号化を進めていくべきではないか。
- 通話品質が多様化していく中、番号によりサービス内容に応じた品質を有していることの識別は必要ではないか。
- 新しいサービスで利用する番号は、具体的なシステムイメージが明確になった段階で、既存番号を利用するのか、新しい番号を利用するのか等の検討が必要ではないか。
- 個人番号的な利用ニーズに対しても、今後必要に応じて検討が必要ではないか。
- 固定と移動が融合したFMCサービスでどのような番号を利用するかについても検討が必要ではないか。

(5) 次回の会合について

総務省より、次回(第3回)会合の案内が行われた。